

岡本寮地区 改良住宅完成 三十二世帯が入居

春日町では、住宅地区改築に基づき、老朽住宅の新築する岡本寮地区の改築の土地を買取し、株式会社を昭和四十二年改築住宅の建築を計画し、より昭和四十五年完成目標に実施しています。

昭和四十二年度に財團法工事に入りました。この第一期工事は総工費三千九百七十万円（うち国庫補助金一千九百七十七万円）の財源を投入し、三DK（六帖、六帖、三帖）三間の新築住宅が完成する予定です。

現在の老朽住宅に居住しておられる人はほとんど入居できました。

DK（六帖、四・五帖、四・五帖）十六戸、DK（六帖、四・五帖）十六戸が完成しました。第二期工事

の総工費は四千二百三十九万円（うち国庫補助金二千二百十九万円）です。第二期工事が完成すると、現在の老朽住宅に居住しておられる人はほとんどの入居できました。

しかし、冬は火災のシーズンです。火災による悲劇をなくし、わたしたちの生

命と財産を守るために、ふだんから火災予防の意識を高め、つぎのこと十分気をつけてください。

一、家庭や職場には必ず消火器を備え、ガス器具などは毎日点検して不審な時はガス会社や販売店にすぐ連絡する。

一、火を使つたまま部屋をあけたり、寝たまゝやすいがらを投げます。行為は禁物です。灰皿には水を入れて使う。



完成した岡本寮地区改良住宅



新しい町づくりは 国土調査から

春日町においては土地利用の高密度化および行政改革の必要性が高まっていました。春日町では将来の総合的発展の基盤となる国土調査法に基く地籍調査の実施を計画策定しています。

地籍調査は「土地の巨細調査」「土地の現勢調査」と呼ばれ、明治初期の助相法に伴う地押調査や野取り調査が実施された現在の土地台帳、字図は調査の不統一や測量技術が幼稚であったため、不確実なものが多いため、宇図は見取図程度で現在の急速な高度化する土地利用の質的としては十分な活用ができる。

そのため、不確実なものが多いため、宇図は見取図程度で、土地の測量ならびに地図化に貢献するとともに、あわせて地籍の明確化

ない、その成果を地籍上に反映する調査を行なったため、國土の実態をはかるため、國土の実態

調査は「土地の巨細調査」の実施によって、地籍の確実化が図られることが二通りあります。

一、出生登録書（届出書）といふときは二通り。

二、出生登録書（届出書）といふときは二通り。

一、出生登録書（届出書）といふときは二通り。

一、出生登録書（届出書）といふときは二通り。